

情勢報告

不知火現地検討会開催



これが天敵だ。

5 月 12 日、JA 土佐あき果樹部の不知火現地検討会が行われ、生産者や関係機関 10 名の参加があった。23 年度から管内で新たに取り組んでいるハダニやアザミウマの天敵（スワルスキーカブリダニ）導入試験の概要について説明し、合わせて天敵に関する情報提供を行った。参加者が必死になって天敵を探す姿から、関心の高さが窺えた。

振興センターでは、さらなる高品質化と果樹部門の IPM 技術の確立に向け支援を行っていく。

アスパラガス現地検討会開催



いっぱい立っちゃったねえ

5 月 17 日、JA 土佐あき安芸集出荷場アスパラガス部会現地検討会が行われた。生産者 9 名のほか関係機関の出席のもと、現地圃場を巡回した。前月、資料に基づき指導した立茎管理等について、各圃場の状態を確認しながら、今後の管理も含めて検討した。栽培開始間もない生産者も参加しており、熱心に意見交換がなされた。

ナス栽培が終了する 7 月以降、飛び込みが懸念されるコナジラミ類対策のため、振興センターではタバコカスカメ等の活用について、今後試行的に調査検討する予定。

JA 土佐あき吉良川支所芋部会の、23 年度の活動方針が決まる！！



検討会議の様子

5 月 18 日、JA 土佐あき吉良川集出荷場にて、芋部会（参加者：11 名）による環境保全型農業の取り組みや今後の販売についての会議が開催された。

まず、振興センターから、昨年度に取り組んだ有機質肥料を用いた生育調査およびフェロモンを用いたコガネムシ類・ハスモンヨトウの捕殺調査の結果を報告した。次に、JA より今年度の部会活動について提案された。

部会員からは、「継続して肥料試験をしていきたい。」「フェロモントラップの効果は大きい。継続して取り組んでいきたい。」「部会で、まとまって販売していこう。」といった積極的な意見があり、今年度の取り組みが決定した。

芋部会の部会員は、平成 21 年度にエコファーマーの認定を受け、化学肥料・農薬の低減に向けて取り組みが始まり、部会活動の活性化につながっている。

今後も、JA 等と連携して、平成 25 年度の目標達成に向けて、取り組み強化を図っていく。